



# 田村 ゆうすけ

35 歳

神奈川県議会議員 瀬谷区選出

田村ゆうすけ

検索

神奈川県が動いた Vol 1 9 月 16 日神奈川県議会 一般質問 本会議登壇



9 月 16 日神奈川県議会

今年も、自民党神奈川県議会議員団として9月16日本会議場にて登壇の機会を頂きました。

特に今回の肝いりの質問は

「弱難聴・中等度難聴児に対する補聴器補助導入について」でありました。重度難聴者は障害者手帳交付対処であり補聴器の助成制度があります。しかし聴力 70 デシベル未満の場合、現在 3 政令市を除く神奈川県内は補聴器助成の対象外であり、特に乳幼児・幼児の発達が著しい段階では難聴と診断された場合、早期に補装具をつけなければ発達障害や言葉の遅れが出るのは想像に難くありません。

補聴器の価格も幅広く、一般的なものでは両耳で約 11 万程度・高性能なものでは約 28 万程度。購入費用の全額負担は小さい子供持つ保護者にとって決して簡単ではないという事がご想像頂けると思います。保護者の経済的理由により補聴器が装用されない場合、こうした子供たちは障害が早期に発見されたとしても適切な対応がなされないままの状態に置かれます。

このことは、子供の将来的な自立と社会参加に悪影響を及ぼしかねない**重大な問題である**ことを指摘し、この質問による

黒岩知事の答弁は

「本県では軽度・中等度難聴児にも支給対象に加えるよう、国に要望してきたところです。お尋ねの助成制度については、国が支給対象とするまでの間、県として、市町村と調整した上で実施する方向で、検討してまいります」

という答弁を頂き、県が助成することが決まりました。

この質問は、県内の多くの聴覚者団体・神奈川県医師会・そして瀬谷区の方々からも多くの声を頂き、このたび皆様の声をきちんと形に変えることができました。翌日、神奈川新聞でも取り上げられ安心して子育てのできる環境をまた一つ改善することができました。

選挙前の私の公約である「未来を支える若い力への行政からの全力支援」「いざという時にも安心して住めるまちづくり防災対策」「高齢者への行政からの手厚い福祉制度改革」を柱に今後も皆様の声を形に変えていきます。

### 県、補聴器購入費補助へ

難聴児対象 言語習得を支援

黒岩知事は15日、軽度・中等度の難聴の子も対象とした補聴器購入助成制度を創設する方針を明らかにした。身体障害者手帳が交付されていないが、補聴器を早期に使うことで、言語習得の大切な時期を支援していく。同日の県議会第102定例会本会議で自民党の田村雄介氏（瀬谷区）の一般質問に答えた。

障害者手帳を持つ人は補聴器を購入する場合、原則1割負担だが、障害者認定基準に当てはまらない軽度・中等度難聴児に対しては購入費を軽減する制度がない。しかし、全体的には45

都道府県で独自の助成制度が広がりつつあり、県内でも3政令市が導入している。知事は「国に軽度・中等度難聴児を支給対象に加えるよう要望してきた。国が支給対象とするまでの間、市町村と連携した上で、実施する方向で検討していく」と答弁した。

また、ろう学校の教員の手話能力の向上について、桐谷次郎教育長は「今後新たに、授業でろう者の教員が手話で会話している様子をビデオカメラで撮影し、教員の自己研修に役立てることを計画している」と述べた。

（鈴木 昌昭）

9 月 17 日神奈川新聞

デシベル	音の大きさ	聴力の程度
0dB		
10dB		
20dB		
30dB	ささやき声	軽度
40dB	静かな会話	中等度
50dB		
60dB	普通の話し声	準重度
70dB		
80dB	大きな声の会話	重度
90dB		
100dB	耳元での叫び声	最重度

障害者手帳  
6級  
4級  
3級  
2級

聴力レベル表

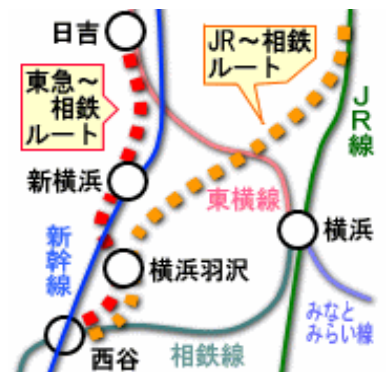
新生児聴覚検査について（生まれたての赤ちゃんに難聴であるかの検査）



平成19年までは国の助成金があり新生児聴覚検査を無理なく行えたが、現在は助成制度が無く保護者の選択に任せている状態です。料金も5000円～1万円程度という事で約8割近くの方は検査を行うという統計が出ていますが2割の方が受診されないのが現状です。約1000人に1人は先天性の難聴を持っていると言われていています。新生児聴覚検査実施に関しては県行政が所管ではありませんが、今後、県としても市町村に、新生児聴覚検査の補助金と検査実施してもらうよう周知し、検査の結果、難聴と診断された場合は、県として対応できるよう受け皿をより充実するよう働きかけていきます。

神奈川東部方面線の事業計画変更について

先日、この神奈川東部方面線整備事業の開業の遅れと建設費の増額について、報道がなされました。報道では、「相鉄・JR直通線」の開業は、平成30年度から約半年遅れて平成31年度下期へ、「相鉄・東急直通線」の開業は、平成31年4月から約3年半遅れて平成34年度下期へ変更する、建設費については、約1,283億円増え、総額が約4,022億円へと変更するというものであります。また、開業の遅れの理由としては、本線に係る用地取得が難航したことや、安全対策設備の検討に時間を要したためなどというものであり、建設費の増額の理由としては、昨今の建設物価の高騰や、法改正などによる汚染土壌の処理費用の増加、地質調査の結果を踏まえた工法変更などによるものとのことでありました。今回で2度目の計画変更であります。3度目の変更は、相鉄線を主軸とする我々瀬谷区民はもちろん、県民にとって到底受け入れられるものではありません。県は、この事業を補助する立場として、今後、このような事態を生じさせないためにも、今回の内容をしっかり精査し、整備主体である鉄道建設・運輸施設整備支援機構に対し、厳しく対処していくことが必要だという事を、黒岩知事と県土整備局長に直接抗議し一日も早く開業できるよう強く要望を出しました。



ごあいさつ

去年4月に行われた統一地方選挙にて18,742票という多くの方に支えられ、横浜市瀬谷区から初当選させて頂きました。ご推奨いただいた方々の負託に応えるべく、しっかりと自分に課せられた使命をまっとうして参る決意でございます。選挙前からお訴えさせていただいていた、「防災対策」「少子高齢化対策」「子育て支援」を中心にしっかりと瀬谷区から県政を変えていきます。特に「防災対策」は、4年前の東日本大震災で私の母親の実家が倒壊し、親戚は津波で流されるという大惨事に巻き込まれたからこそ、皆様に同じ思いはしてもらいたくない一心で、より一層力を入れていきたいと思っています。

神奈川県議会議員（瀬谷区選出）

**田村 ゆうすけ**

- ・厚生常任委員会 委員
- ・教育スポーツ振興対策特別委員会 事務局長

- ・瀬谷区阿久和西2丁目在住
  - ・習い事 手話教室
  - ・4人男兄弟の長男
  - ・家族は妻、娘2人
  - ・1980年11月29日宮城県仙台市生まれ
  - ・衆議院議員 さかい学の秘書を経て
- 2015年4月 神奈川県議選に初当選



<http://tamura-y.com/>

田村ゆうすけ  
で検索